

# 令和4年度 社会福祉法人元氣会 認定こども園新川西コグマ保育園 自己評価

平成30年4月1日に施行された保育所保育指針において、「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、本園では自己評価を実施し、その評価の結果を公表し、その結果を踏まえ、今後も保育内容等の充実を図ってまいります。

<評価について>評価をするにあたっては、以下の基準で行っています。

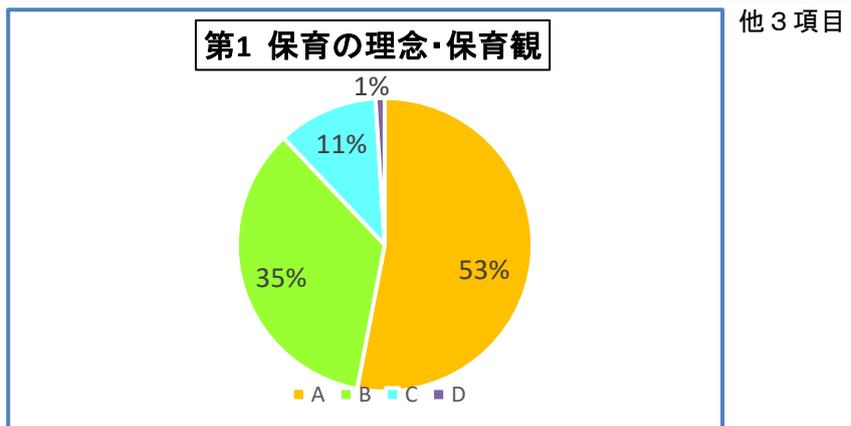
- A：たいへんよい。とてもあてはまる。とてもできている。
- B：よい。あてはまる。できている。
- C：一部検討を要す。あまりあてはまらない。あまりできていない。
- D：改善を要す。あてはまらない。努力が必要。

なお、本園で採用しているチェックリストは、日本保育協会が作成したものです。各項目の設問は一部を紹介しています。結果については、集計データと評価語で記載しています。

## 第1 保育の理念・保育観

- |    |   |
|----|---|
| 1) | すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。                                 |
| 2) | 児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障する事が保育所の重要な使命だと理解している。 |

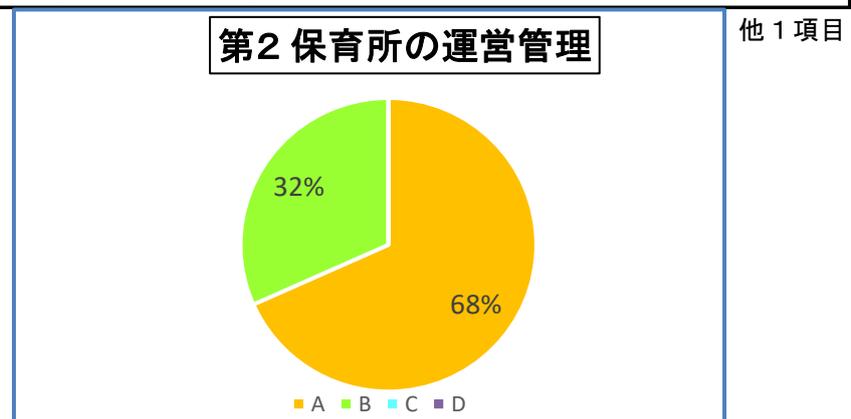
A、Bの割合が多く占め、自己評価は高いと判断できる。  
保育の拠り所となる「保育所保育指針」の熟読を問う項目において評価が低かった。自信をもって保育を実施できるよう、「保育所保育指針」に対する個の学びを推奨し、園内研修にも取り入れていく。



## 第2 保育所の運営管理

- |    |                                |
|----|--------------------------------|
| 1) | 保育所における自分自身の役割や責任の範囲などを理解している。 |
| 2) | 個人情報の保護や守秘義務に関して理解している。        |

全てA、Bの評価であり、保育士としての自覚をもち実践していると捉えることができる。また、個人情報の保護や守秘義務についても理解して取り組んでいる。今後も継続していく。



### 第3-1 保育の内容(生命の保持)

1)	子どもの発育や発達の状態、家庭での食事、睡眠などの状態について保護者から情報を得るようにしている。
2)	登園時、子どもの健康観察(機嫌、顔色など)を行っている。

他1項目

### 第3-2 保育の内容(情緒の安定)

1)	一人一人の子どもの生理的欲求(食欲や睡眠など)が満たされるよう配慮している。
2)	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声を掛けたりしている。

他3項目

### 第3-3 保育の内容(健康)

1)	一人一人の子どもが、伸び伸びと遊べるよう見守っている。
2)	いろいろな遊びの中で、全身を使って体を動かすことができるよう配慮している。

他3項目

### 第3-4 保育の内容(人間関係)

1)	いろいろな遊びや活動の中で、子どもが自分なりに考えて行動できるよう配慮している。
2)	子どもが、自分でできることは自分でしようとする意欲や姿勢を十分に見守っている。

他2項目

### 第3-5 保育の内容(環境)

1)	子どもが、全身を介して直接自然と触れ合う体験をする機会を設けている。
2)	子どもが、自然に対する驚き、自然の美しさに感動する気持ちを抱かせるような援助をしている。

他1項目

### 第3-6 保育の内容(言葉)

1)	子どもの発達や理解力などに合わせた言葉を使うよう心がけている。
2)	子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉がけをするよう心がけている。

他5項目

### 第3-7 保育の内容(表現)

1)	子どもが、歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして、表現の楽しさに気付くよう配慮している。
2)	子どもが、感じたことや考えたことなどを音や動きで表現できるよう工夫している。

他2項目

### 第3-8 保育の内容(全般的配慮事項)

1)	一人一人の子どもの心身の発達や活動の実態を踏まえた保育を行うよう配慮している。
2)	一人一人の子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育を行うよう配慮している。

他1項目

### 第3-9 保育の内容(乳児配慮事項)

1)	一人一人の乳児の発育や発達の状態をよく観察したうえで、常に体の状態を細かく観察している。
2)	乳児のしぐさや声を介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答している。

他1項目

### 第3-10 保育の内容(1～2歳児配慮事項)

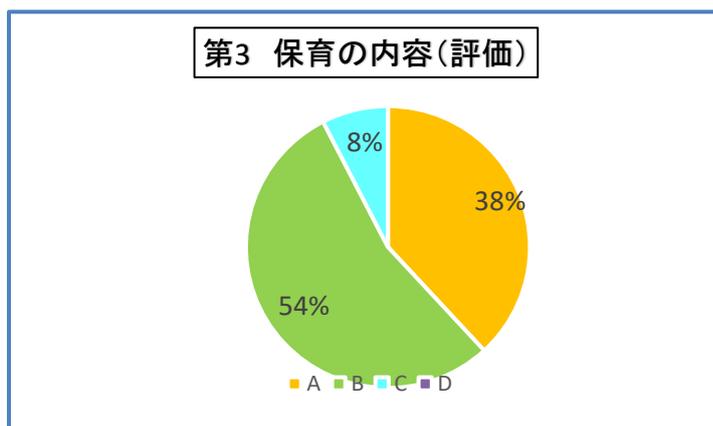
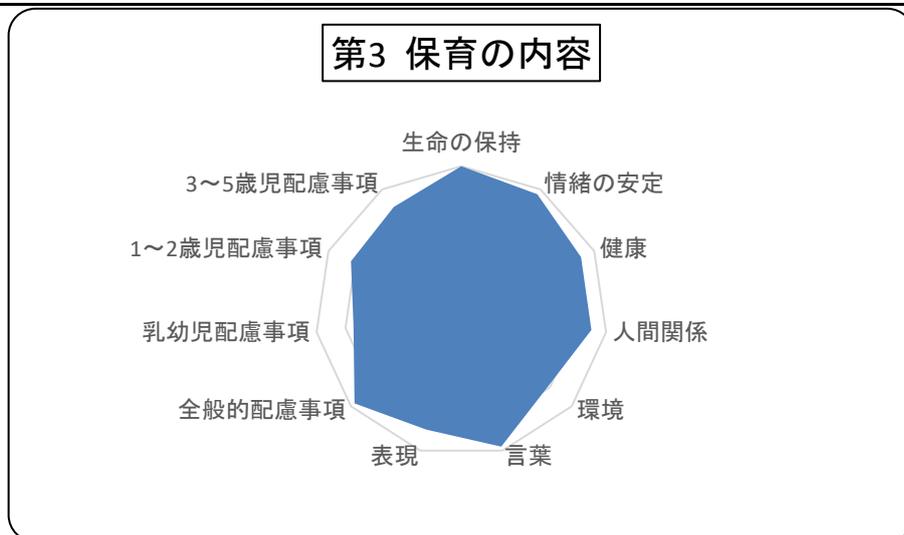
1)	1～2歳児の基本的な生活習慣の習得については、一人一人の子どもの発達過程に応じて行っている。
2)	1～2歳児が、楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを大切にしている。

他3項目

### 第3-11 保育の内容(3～5歳児配慮事項)

1)	3～5歳児が、生活に必要な習慣や態度を身に付け、適切な行動を選択できるよう配慮している。
2)	3～5歳児にとって、保育所の保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意している。

他2項目



A、Bの評価が一番高かった項目は、「生命の保持」で、次に「言葉」、さらに「情緒の安定」「全体的配慮事項」と続く。

「生命の保持」では、どの保育士も保育中の子どもの様子の観察に努めている。

「言葉」の項目では、挨拶の大切さに高い評価がつけられた。今後も保育士自ら挨拶をし、「挨拶をする子」を育てていきたい。

「環境」について、全体的に低い評価であった。園庭はないが、子どもたちが体を動かす機会が増えるよう、屋上や公園、園周辺の散歩等を設定している。室内の自由遊びにおいても、子どもたちが遊び込められるよう、さらに玩具の種類や配置等の工夫をしていく。今後も、子どもたちが安全に思いっきり遊べる環境づくりに取り組む。

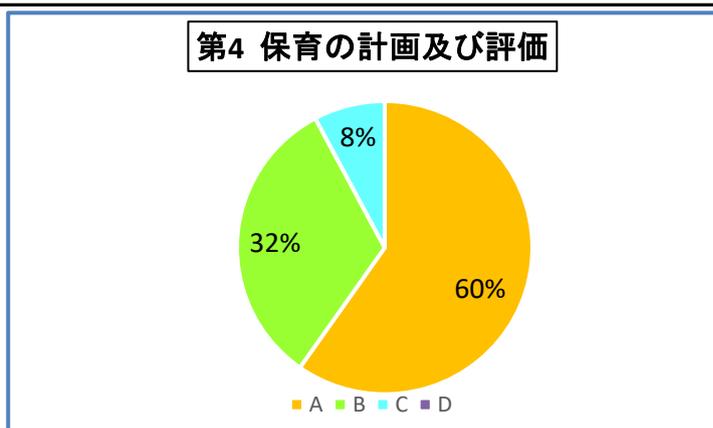
今回、自己評価が低かった「乳幼児配慮事項」については、担当していない者の評価が入ったためである。次年度以降、回答の仕方について検討していく。

## 第4 保育の計画及び評価

1)	保育所の保育課程を理解している。
2)	指導計画を作成する際、保育課程に基づいて作成している。

他6項目

子どもの発達や興味・関心を観察し、それらを反映させながら、月及び週計画を作成している。  
 今後も、園の保育課程に則って、指導計画作成に努力する。また、保育の質のレベルアップのため、保育に関するアイデアを共有する場面を設定していく。



## 第5-1 健康及び安全(子どもの健康支援)

1)	子どもの日々の健康状態を把握し、一人一人の保育に生かしている。
2)	子どもの健康診断の結果などから、子どもの発育状況を把握し、一人一人の保育に生かしている。

他8項目

## 第5-2 健康及び安全(環境及び衛生管理)

1)	衛生管理に対する園の方針などを理解している。
2)	保育に従事する者として、服装や身支度に配慮し、自らの健康と清潔を常に心がけている。

他4項目

## 第5-3 健康及び安全(事故防止及び安全管理)

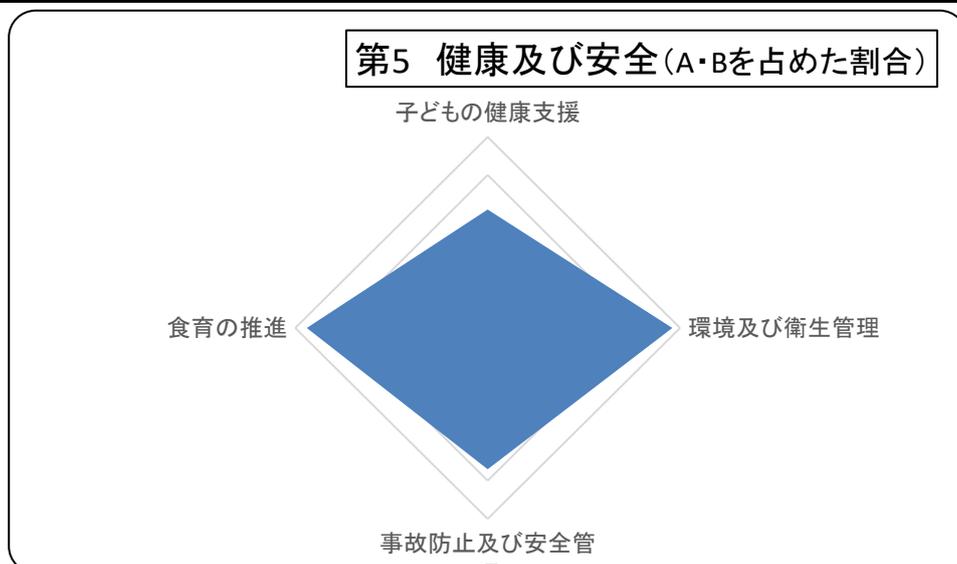
1)	事故防止や安全管理に対する園の方針などを理解している。
2)	園内の設備、玩具、用具などを定期的に点検している。

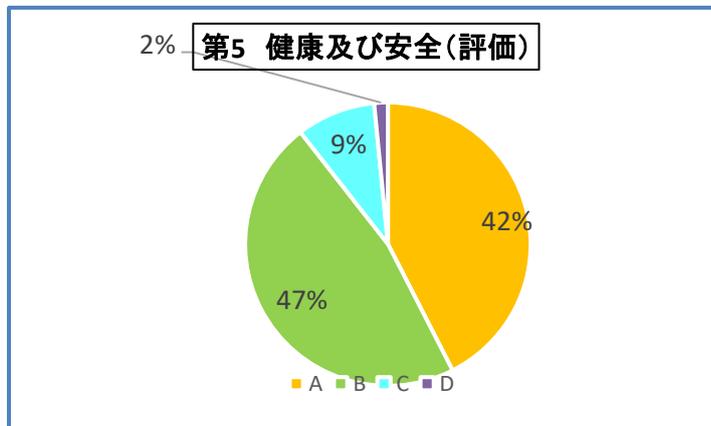
他6項目

## 第5-4 健康及び安全(食育の推進)

1)	食事が保育の内容の一環であり、食育として位置づけられていることを理解している。
2)	子どもが落ち着いて食事やおやつを楽しめるよう配慮している。

他4項目





どの項目もA、Bの評価が多かった。どの職員も気を付けている内容は「おむつの交換や嘔吐物などの処理の際、手洗いや使い捨て手袋の使用など、衛生に配慮している。」であった。今後も、衛生管理と事故防止のために定期的な点検や研修等を実施していく。

月1回の避難訓練で 避難の経験は積んでいる。今後も様々な災害や不審者等に対応できるよう、内容の吟味を行い、計画的に訓練を実施していく。

コロナ禍において、給食やおやつ時間は、黙食を推奨してきた。次年度からは、少しずつ、食の時間を楽しめるような活動を取り入れ、食育の推進を行っていく。

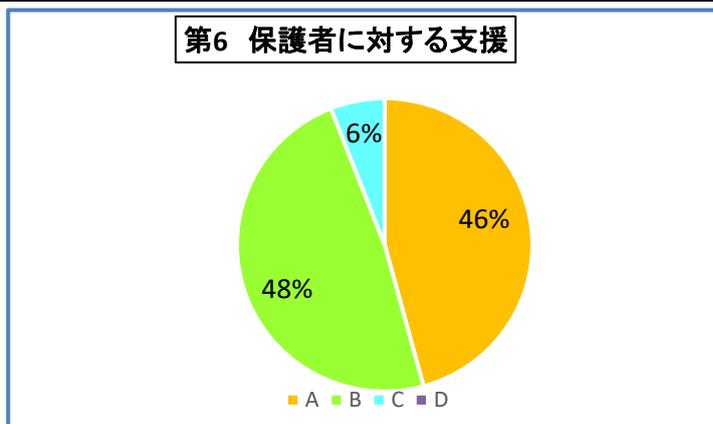
## 第6 保護者に対する支援

- |    |  |
|----|--|
| 1) | 送迎の際など、保護者と積極的に言葉を交わしている。                  |
| 2) | 送迎の際の会話や連絡帳を活用して、保育の内容や子どもの様子などを保護者に伝えている。 |

他 4 項目

園での様子を出来るだけわかりやすく伝えられるよう、引継ぎを行い、送迎時の対応を心掛けている。

コロナ禍における対応で、行事に制限があった。次年度以降は、保護者と直接的に会話ができる機会を増やせるよう、内容の検討を図る予定である。



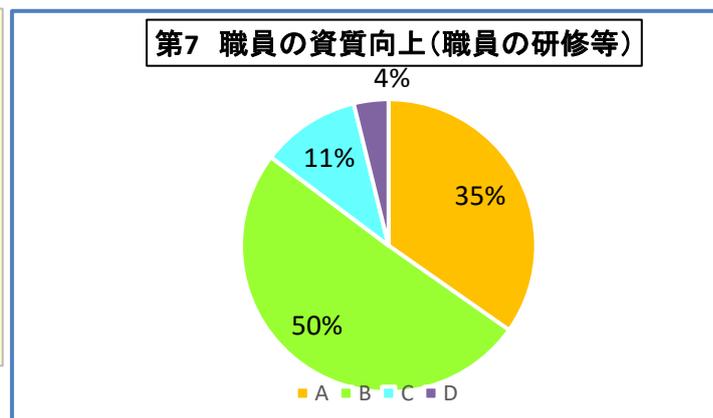
## 第7 職員の資質向上(職員の研修等)

- |    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1) | 自身の人間性や倫理観が子どもに影響を与えることを自覚している。 |
| 2) | 園内で行われる研修や会議に積極的に参加している。        |

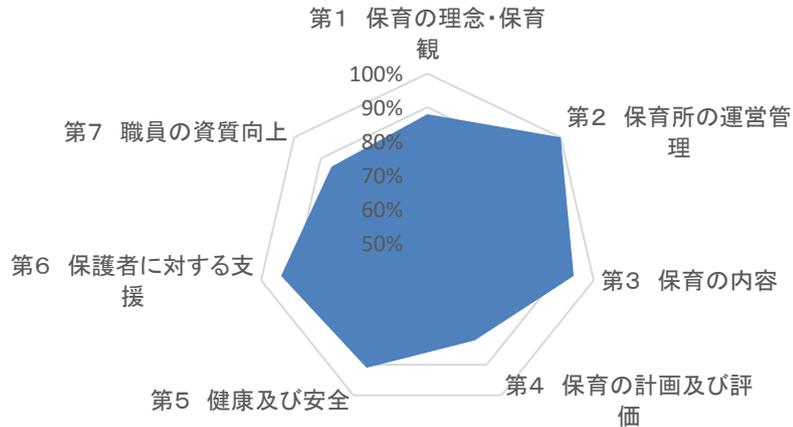
他 8 項目

外部での研修参加者に発表の場を設け、共通理解している。今後も継続していく。

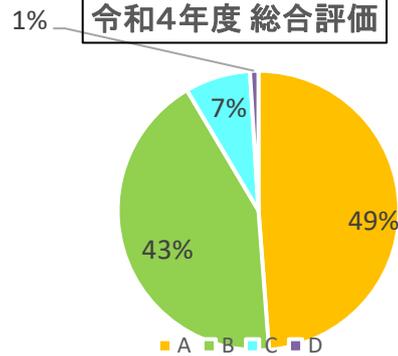
園内での研修の充実に向けて努力すると共に、研修の成果が日常の保育に生かされるように研鑽を深めたい。



## 第5 章ごとの評価(A・Bを占めた割合)



## 令和4年度 総合評価



開園から3年目が終了します。この3年間は、継続的なコロナ禍対応を考慮しながら、子どもの健康、安全な保育についての意識を高め、感染防止に努めながら、保育を行ってきました。本園の運営が進められましたのも、保護者、地域の皆様のご協力のおかげです。

総合評価から、「保育の理念、保育観」を学び続ける必要があると自覚しています。感覚や経験に頼るだけではなく、研鑽し、職員の資質向上が急務であると判断しています。

子どもたちの生涯にわたる、生きる力の基礎を培うために、より一層一人一人の居場所づくりに心掛け、心の安定を図る保育を実施していきます。同時に、発達を促すための教育にもバランスよく取り組んでいきます。